

会議録

会議の名称	令和7年度新座市青少年問題協議会		
開催日時	午後3時から 令和7年10月23日(木) 午後4時30分まで		
開催場所	新座市役所 本庁舎5階 第1委員会室		
出席委員	片山敏子委員 上田美小枝委員 石島陽子委員 田口訓子委員 金子廣志委員 秋田格委員 小関直委員 倉持高成委員 糸永悦史委員 小糸 ちえみ委員 嶋野加代委員 松本徳子委員 高橋和久委員 唐鎌安子委員 鈴木松江委員		
	計15名		
事務局職員	教育総務部 斎藤寿美子部長 井口幸彦副部長兼生涯学習スポーツ課長 生涯学習スポーツ課 渡邊真吾副課長兼スポーツ・青少年係長 佐藤佳奈主事 分須佳奈子主事 武嶋正江コーディネーター		
会議内容	別紙のとおり		
会議資料	次第資料		
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 (傍聴者 0人)		
4 その他の必要事項	欠席委員 淺田敦子委員 高橋正一委員 高橋富雄委員 解説者 新座市教育相談センター		
	計3名		
	坂根英子室長		
	計1名		

審議の内容 (審議経過、結論等)

1 開会 (司会 事務局)

2 挨拶 (鈴木会長、金子委員、倉持委員)
委員の紹介

3 議題: 昨今の青少年を取り巻く課題について

発言者	内容
会長	不登校について、事務局から説明をお願いする。
事務局	<協議内容について説明>
室長	<不登校について説明>
委員	(室長の説明の中で取り上げられていた) 第二中学校の校長先生がいらっしゃるので、ぜひ取り組み状況等を聞かせていただきたい。
委員	<p>(第二中学校では) 多様な育ちを大前提とし、学校教育を見直しているところである。スタンダードな学校生活に入れない生徒がたくさんいるということを考えなくてはいけない。登校したくてもできない子、あえて登校しない子が増えている。</p> <p>学校で調査したところ、約15%の子が学校に行きたくないという気分があることがわかった。第二中学校では120人の生徒が不登校になってもおかしくない数値であるが、実際現在の不登校生徒数は約30人である。</p> <p>文科省の勧めで校内教育支援センターを設置したが、現状予算も人員配置もなく、空き時間の先生が指導するなど工夫して運営している。そのため市内には4校のみの設置で増えていない。</p> <p>学校や教室に行きづらい生徒のために、ピットとスマスタの2つの校内教育支援センターを設置し、設置場所や雰囲気で選べるようにしている。成績が大変優秀な生徒もいる。</p> <p>(学校や教室に通えない又はあえて通わないことで) 生徒のキャリアが途切れることを防ぎたい。(ピットやスマスタでは) いやなことを強制されないことが生徒にとっては良いようだ。</p> <p>ほとんど学校行事に参加できていないが、修学旅行をスマスタの生徒だけの別行動にしたところ3名から10名に参加者が増えた。</p> <p>また、スマスタの課外活動では、引率の教員が教室に入れない生徒の苦手があらためてわかったという。</p>
委員	<p>良い取り組みを学校がしており、空き時間に色々な先生が協力してくれている。</p> <p>また、児童相談所の現状についてお話しをお聞きしたい。</p>
委員	(朝霞児童相談所では) 相談件数が多いのは児童虐待。昭和の時代は不登校の相談が多かったが、各自治体の相談窓口が増えたため、(朝霞児童相談所での) 不登校の相談は減ってきている。最近は不登校のこどもたちの過ごし方の相談は増えている。非行の件数は昔に比べれば減っているが、中学生について一定数、学校に行かずふらふらしているケースがある。
委員	不登校で高校進学が途切れてしまうということはない。学校選抜においては、県内どこの公立高校でも「不登校特別選抜」という不登校の子に対応した出願の仕方がある。出願にあたっては、中学校

	と相談してもらいたい。しかし、（合格しても）その後、集団や教室に入るのが難しい生徒がいるのは事実である。一般的な高校は1クラス40人だが、前任の戸田翔陽高校では一学年240人募集のところ、午前部80人、午後部80人、夜間部80人としている。（通常は2クラスのところ）80人を3クラスにし、25、6人のクラスを設置したところ、学校を続けられる子が増えた。入学前に保護者からこどもの特性を学校に相談されたことがあったが、生徒の意見を聞いて対応しうまくいき、その後ずっと登校できている。相談を受ける教員のスキルアップも大切である。
会長	25、6人学級が高校でも効果があった。今小学校も少人数学級で良い状況である。中学校も少人数学級を進めていく必要性があると感じた。例えば市で教員の予算を予算化してもらう、退職した教員・地域の方に協力してもらうなどして、進めていけたらと思う。
委員	不登校特別選抜はどのくらいあるのか。不合格の子もいるのか。
委員	不登校特別選抜は県内の公立高校はすべてある。人数制限はある。また、不合格の子はいる。
委員	文科省が予算をつけていているのに、県が予算取りしていないのはなぜか。不登校特例校について少人数で良いと聞くが、県内の計画や動きはあるか。
室長	市の校内ルーム支援スタッフの配置について、国の補助金制度の対象ではあるが、制度上の制約により現在は活用できない状況である。 不登校特例校は、補助金があるが、県内で設置を進めている自治体としても、予算、場所、人員、教育課程等の様々な課題があるようで、新座市としても現段階で設置は難しいと考えている。
委員	教員の働き方改革が叫ばれている中、教職員の努力・善意で成り立っている感がある。
委員	来年度から中学校1年生の35人学級が実現する予定である。
委員	入学する生徒数が減っているから実現するのか。
委員	現在市内の児童、生徒はそれほど人数が減っていないが、（今後は）減少傾向になる。
委員	中学校は令和8年度が生徒数のピークである。
委員	町内会の目的はコミュニケーションである。行事活動を行いながらコミュニケーションをとっている。年間で色々なイベントがあり、運営は年齢層が高いが参加者には親子もいる。3～4年前に立教大学の学生に町内会イベントにボランティアに来てもらうようになってから、こどもたちの参加が増えたり、こども同士の関わりが増えたりした。 不登校に直接参考にならないかもしれないが、こどもとの会話をどううまくするかという事例として挙げた。大人の話をこどもが受け入れづらかったり、通じなかったりすることもある。年齢の近い学生の話の方が聞いてくれるのではないか。
会長	それぞれの団体で本日の内容を共有していただき、少しずつ問題を改善できたらいいと考える。以上で議事を終了とする。

4 閉会（唐鎌副会長）